



創立100周年を祝う

奈良女子大学附属中等教育学校の創立100周年記念事業は、メインイベントの記念式典・音楽会、記念公演を無事終了することができました。本校の持つ「自由な精神」の伝統を再確認すると共に、参加生徒の多方面での活躍もあり、同窓生諸氏からも非常に高い評価を得ることができました。

創立100周年記念式典は、11月21日、奈良県文化会館国際ホールで行われました。式典は、附属幼稚園・小学校の卒業生でもある吉田小江子氏が司会を務め、塚本幾代校長の開式の辞に始まって、同窓会長（記念事業実行委員長）森本公誠東大寺長老の挨拶、野口誠之奈良女子大学学長の式辞と続きました。学長式辞では、女高師時代から大学が附属の存立と教育を一貫して支えてきたこと、今後ともその姿勢を堅持していくことが強調されました。

次いで、来賓祝辞に移り、前川喜平文科省総括審議官が、高木義明大臣の祝辞を代読しました。荒井正吾奈良県知事と松本紘京大総長（卒業生代表）からは、卒業生ということもあって、ユーモアを交えた貴重な後輩へのメッセージを頂きました。さらに竹内行夫最高裁裁判官の祝電が披露されました。橋本勇一郎記念事業事務局長からの100周年記念事業報告につづいて、小川クニ子、松森重博、西堀弥恵の三氏からメッセージが送られ、石田里奈後期課程生徒会長、日比健人学園祭運営委員長が抱負を語りました。最後に女高師校歌、学友の歌1・3を斉唱して記念式典を終えました。心配された時間延長もなく、内容に加え、生徒の態度がよかったと、大先輩方からお誉めの言葉を頂きました。

附属中等教育学校

第二部は、坂口紀代美氏から記念モニュメント「に至る」の紹介があり、「過去から未来へのメッセージ」（清水孝之氏制作）を込めた、記念DVDの上映があり、記念音楽会に移りました。音楽会の冒頭、器楽部OB・OG有志による合奏が披露され、つづいて現役の器楽部演奏により、1曲目は「大学祝典序曲」、2曲目は6年生石坂真帆さんの作曲によるコンチェルト「碧の風景」が、石坂さんのピアノと器楽部により披露されました。最後は、山口佳恵子（声楽）、宮本弘子（ピアノ）、五十嵐由紀子（バイオリン）の卒業生演奏家によるミニコンサートが行われました。



11月23日は、やまと郡山城ホールにて、劇団「カムカムミニキーナ」による「水際パン屋」の演劇公演が行われました。主宰、主演の松村武氏、八嶋智人氏は平成元年の卒業で、両氏を中心とした劇団の熱演は、本校学園祭における両氏在校中の名演を彷彿とさせ、観劇に集まった生徒、保護者、教職員、同窓生が一体となった、楽しいひと時となりました。公演終了後、5年生の飯島麻穂さん・大曾根直君の司会でミニセレモニーが行われ、野口哲子奈良女子大学副学長の挨拶に続いて、松村・八嶋両氏のミニトークがあり、最後に卒業生でもある上田清大和郡山市長から附属中等教育学校の後輩たちにエールが送られました。



2010年11月12日（金）、附属小学校・幼稚園を会場として「幼小一貫教育において『読解と表現をくつなぐ』論理的思考力』を育成する教育課程の研究開発」を主題とする、文部科学省研究開発学校第2年次の公開研究会を、225名の参会者を迎え、開催いたしました。

午前中の公開は、小学校では、まず「朝の会」を全学級で行いました。その後、3年、4年、5年、6年の学級で「ひらめき」の時間の学習を公開しました。「観光客がよく来る・奈良」伝（3年）、「富雄川を調べよう」（4年）、「くらしを支えるもの〜つくる・使う〜」（5年）、「世界とつながる日本」（6年）です。また、異年齢交流活動（5歳児と1年生）として、「とぼしてあそぼう」を幼小の教師3人の協働によって進めました。その他、音楽や国語、算数の学習領域を通して、論理的思考力をどう育てるのか提案授業をしました。

幼稚園では、3歳児と4歳児による「ひらめき」の活動を公開しました。「〇〇になって あそぼう」（3歳児）、「はっぱや どんぐりが なにになるかな」（4歳児）の自由選択活動です。また、学級全体活動を参観していただきました。



さて、本年度は新たな試みとして、3学年（5歳児と1年、2年）が交流する「なかよしひろば」を公開しました。ここでは、2学年では見られない「学びの文化の伝承」が確認されました。例えば、2年生の動きがよくなり、1年生、幼稚園児をうまくリードする姿が見えてきました。また、幼稚園児を中心にして、両側から1年生と2年生が位置することで、年齢の違う3人が、絶妙なバランスで気を遣い合いながら活動することも分かってきました。これは、単なる上下関係から、一つの簡単な社会の形成への違いがあるように思われます。

当日は、グループでいっしょに出かけた奈良公園の様子や調べたことを表現し、発表する活動を行いました。発表は、2班（約22人、6グループ）ずつ五カ所に分かれて交流し、互いの発表に関して、「おたずね」や感想を伝え合いました。



午前中の全体会では、野口誠之学長のご挨拶をいただき、その後、本研究開発の概要について、阪本教諭が説明しました。午後からは、3つの分科会にわかれ、2年次の研究成果を発表しました。ご参会の先生方と意見の交流をしながら、運営指導委員の先生方から助言をいただきました。

最後に、「幼小一貫教育をめざして」と題して、東京成徳大学の神長美津子先生からご講演を賜りました。その中で、本学がめざしている幼小一貫教育に温かいご支援と力強い励ましをいただきました。

本公開研究会の成果と課題からさらに研鑽を積み、小学校・幼稚園の全教諭で力を合わせ、三年次の研究に取り組んでいきたいと思っております。

2010年12月11日(土)に、日本教育大学協会附属学校委員会が主催する、第2回全国国立大学附属学校研究協議会が開催されました。その目的は、「国立大学附属学校の新たな活用方策」が示す課題を踏まえたこの一年間の取組を振り返るとともに、第二期中期目標・中期計画に基づく各附属学校園の取組について情報交換し、国立大学附属学校園のこれからの役割・意義、在り方について考えることです。本学からは、中島道男附属学校部長をはじめ、6名が参加しました。

プログラムは、第1部：実践発表と協議、第2部：基調講演と鼎談からなり、第1部の実践発表は、①大学・地域との連携、②附属学校の運営、③先進的・実践的な取組み、④教員養成の4つの視点から行われました。

本校は、全国から多数の応募があった実践から選ばれた4校の中の1つとして、吉田信也副校長が『先進的な中高一貫理数教育と高大接続』と題して、第1部で実践発表をしました。まず、全国的に高い評価を得た第1期スーパーサイエンスハイスクール(SSH)の研究内容とその成果、および今年度より指定された第2期SSHの計画の概

要を発表し、次に昨年度より奈良女子大学と本校で実施している「高大連携特別教育プログラム」についての概要と実施状況を発表しました。笑いも取りながらのテンポよいプレゼンテーションは、先進的な理数教育と接統一貫教育に関する全国的な拠点校としての本校の在り方を、強烈にアピールするものでした。

第2部の鼎談「国立大学附属学校園は、いま、何をすべきか」の中でも、本校の第1部における実践発表の内容が再三再四取り上げられていました。このように、「新たな活用方策」に応えるべく進めている本校の教育研究が、全国的にも評価された研究協議会でした。



附属幼稚園TOPICS 「子ども作品展－親子で作ろう」

毎年、11月下旬に「子ども作品展」を行っています。園児全員の絵と、年度ごとに内容は変わりますが、自由選択活動時に作った製作物や粘土の作品、年長児によるグループ製作の作品、幼小交流活動での作品などを展示しています。

また、子ども作品展と同時に、親子で一緒に製作を楽しんでもらおうと、「親子で作ろう」も実施しています。今年度は、信楽焼の焼き物を作ることを楽しんでもらいました。子どもが主体で、子どもの作りたいと思うものを保護者が援助して作るように教師が声をかけていますが、これが保護者にとってはかなり難しいことのように。とくに難しいのは、年少児の保護者です。

年少児は、粘土をこねることそのもの、粘土の感触を楽しんでいます。こねて、丸めて、ちぎって、くっつけて偶然できた形を見てイメージをも

ちます。子どもは、粘土の一番の特徴である可塑性を十分に楽しんでいるだけなのですが、作品にしようと思う保護者は、かなりの苦勞をします。

「ねこ」と思って作っていたら、急に耳らしきものがついて「うさぎ」になるのです。「え～、ねこじゃなかったの」と驚きながらも、子どもの思いを受け止めて柔軟に対応していたり、あまりに変化するので、「お願いだから触らないで」と保護者が作っていたり、親子で粘土を分けて、親子それぞれが作ることを楽しんでいたりします。

しかし、その2年後、自分の作りたいものを事前に決め、その実現のために完成図を書いてきたり、必要な用具を持ってきたりして作ることを楽しむ年長児になるのです。年少・年中・年長それぞれの時期の子どもの姿と、その成長を感じてもらいたいと願っています。



附属小学校TOPICS 「お父さんたちのパワーが全開」

小学校には、お父さんたちが中心となって学校の教育を支える活動があります。平成6年に立ち上げ、ペアレンツ、ティチャー、チルドレン、カウンセラーの頭文字をとってPTCCと命名しています。互いに心を開き、語り合い、共に勉強し共通の悩みや疑問を解決する趣旨のもとにスタートしました。現在は、最後のCは、コミュニケーションとしてとらえ、保護者・教師が子どもを中心に活動する組織として位置付け始めています。

13年前から行っているPTCC全体行事では、毎年、パワーを見事に結集して、心に残る活動を生み出しています。普段できない貴重な体験学習の場として、子どもたちの人気は増すばかりです。今年は、小学校の創立100周年にちなんで、知恵を集め、各学年でブースを作り、壮大な催しを計画しました。

1年生は「昔の遊び道具を作る」

2年生は「100をテーマにした遊び」

3年生は「お父さんの自由研究発表：附小の歌 今昔」

4年生は「昔の遊びを親と体験する」

5・6年生は「餅つき：昔の餅つきと今の餅つき」

です。当日は、PTCCの役員だけでなく、ボランティアのお父さんやお母さんたちの協力体制のもと、全体行事を進めました。

3年生のお父さんたちは、事前のアンケートで全校の

子どもたちから「この学校の好きなところ」を聞き、それをもとに作詞しました。その詞に全国で活躍されている河野康弘氏が曲をつけ、「ありがとう100年」という歌を作り上げました。当日は、お父さんたちの指導で、どの学年の子どもたちも元気よく歌いました。

- ♪[1]ありがとう100年 元気な体を育ててくれた
笑顔いっぱい運動場 ロープで遊んだ「うらやま」
古都に生まれた学び舎はなかよしみんなの宝物♪
- ♪[2]ありがとう100年 大きな心を育ててくれた
毎日書いた日記帳 いっぱい話した「元気しらべ」
古都に生まれた学び舎は 大好き みんなの宝物♪
- ♪[3]ありがとう100年 豊かな自然を育ててくれた
小鳥のさえずる大きな木 お魚達の「めだかいけ」
古都に生まれた学び舎は伸びて行くみんなの宝物♪



附属中等教育学校TOPICS 「SSHプログラム ASTY Camp」

今年度、附属中等教育学校は第2期のSSH指定に加えて、コアSSHの追加の指定を受け、中高生によるサイエンスをとおした様々な国際交流を実施しています。

そのプログラムの1つとして、8月17～23日に、日本・韓国・台湾の中高生が参加する1週間にわたるサイエンスキャンプASTY Camp (Asia Science & Technology Youth Camp) を本校で開催しました。本校・韓国・台湾の中学3年生・高校1年生計56名が参加し、ワークショップなどを通して、協働で数学や科学の世界を探究する取り組みを行いました。

本校は、開催国のメリットを生かし、より多くの生徒にサイエンスを通じた国際交流を体感してほしいと考え、一般の生徒が多数参加できるキャンプを目指しました。加えて、科学英語の事前学習の実施や、キャンプ中のアイスブレイキング活動の充実をはかるなど、生徒のコミュニケーションを促進する工夫を行いました。

当日は、初めての体験にどうしていいか戸惑う表情が見られましたが、アイスブレイキング等を通して少しずつ生徒の仲が深まっていく様子が伺えました。ワークショップ当日には、本校および海外の教員が協力して準備した生物、数学、情報、化学、物理の5つのワークショップに分かれて研究活動が行われました。慣れない英語でのやりとりに苦戦しながらも、日を追って少しずつ議論が活発化し、3日間のワークショップを経て、最後には立派なポスターを作成することができました。その後のポスターセッションでは、各国の生徒が協力しながら研究発表を行い、運営指導委員の先生方や本学の野口誠之学長、野口哲子副学長の講評をいただきました。

今回のキャンプは生徒のみならず教師にとってもまさに「刺激的」。3カ国の生徒と教師がともに体当たりで奮闘し、それぞれが成果と課題を見つけることができました。1週間となりました。

